ISSN 2759-4491

2024

九州大学病院
国際医療部
2024 年度活動報告

発　行　2025 年 6 月
監　修　森山 智彦 / 工藤 孔梨子
編　集　松田 沙織 / 大山 明子
制　作　黒澤 茂樹
事務局　〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1
九州大学病院 国際医療部
WEB: https://plaza.umin.ac.jp/imed/

OVEX Overseas Exchange Center
海外交流センター
TEL: 092-642-4439
WEB: http://plaza.umin.ac.jp/ovex/

TEMDEC Telemedicine Development Center of Asia
アジア遠隔医療開発センター
TEL: 092-642-5014
WEB: https://www.temdec.med.kyushu-u.ac.jp/

IPAC International Patient Support Center
国際診療支援センター
TEL: 092-642-4231
WEB: https://plaza.umin.ac.jp/ipac/

iMed International Medical Department

九州大学病院 国際医療部

2024 年度活動報告

はじめに …… 1

特集 …… 2

ハイライト …… 3

トピックス
- OVEX …… 9
- TEMDEC …… 10
- IPAC …… 11

プロジェクト一覧 …… 12

メンバー …… 13

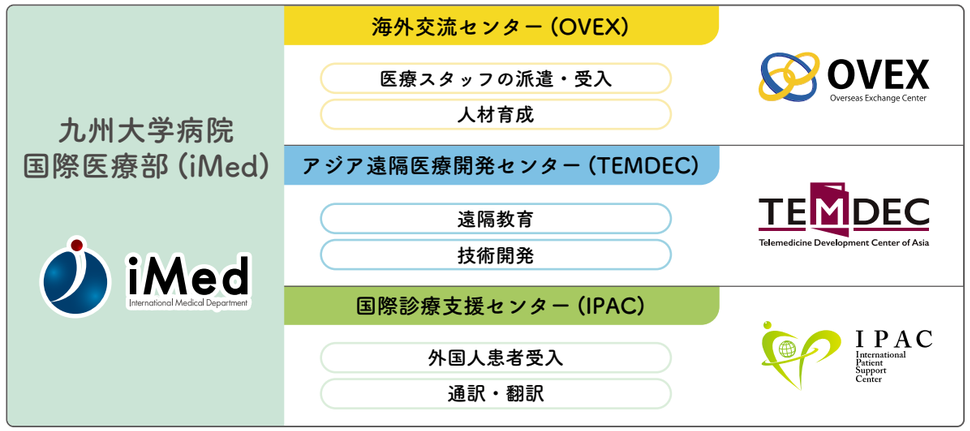
～　国際医療部の 10 年間　～

九州大学病院 副病院長
国際医療部長
中島 直樹

国際医療部（iMed）は2015年4月に設置され、この4月で10周年を迎えました。その間、日本へのインバウンド観光客の急増、新型コロナウイルス感染症パンデミック、ウクライナやガザ地区での火力戦争や米中の対立化など、グローバルな不穏を含めて様々なことが起こりました。そのような中で国際医療部は、九州大学病院の5つの「基本方針」のうちの一つ、「情報技術を基盤にした国際化の推進」を実現すべく、海外交流センター（OVEX）、アジア遠隔医療開発センター（TEMDEC）、国際診療支援センター（IPAC）の三センターを傘下に置き、一丸となって活動を継続しています。

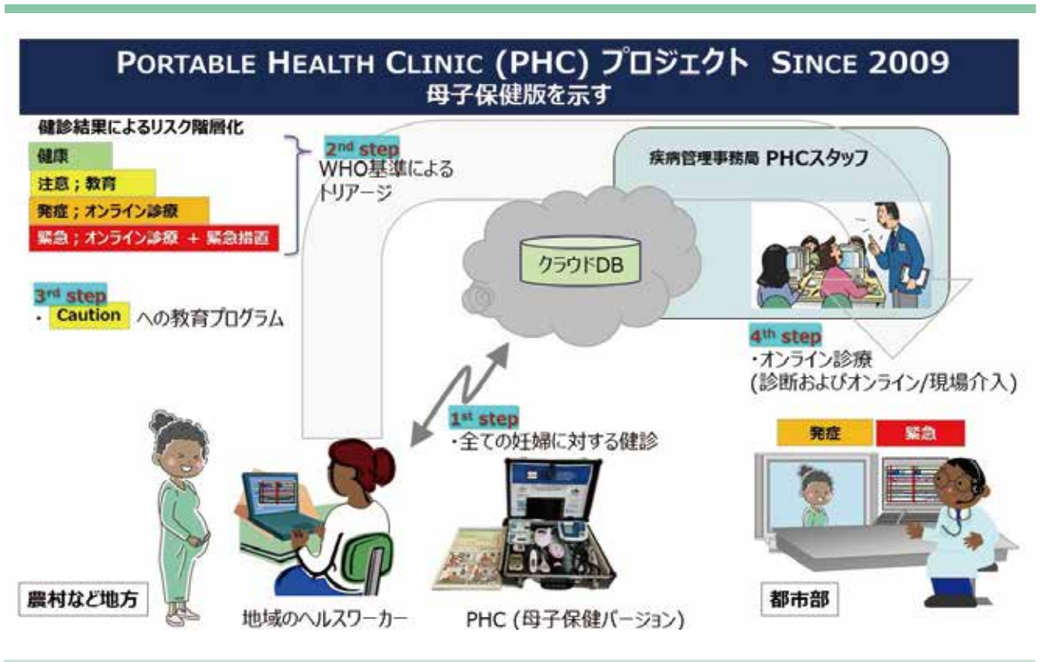
OVEXはiMedと同時に設置され、九州大学病院の教職員の海外派遣や外国人研究者受入などの国際的人事交流を通し、世界で活躍できる人材の育成を目指しています。また外国人医療スタッフのニーズに応え、快適で有意義な滞在をサポートしています。TEMDECは2008年に設立され、日進月歩の医学・医療をITを活用した遠隔医療教育を通じて、発展途上国を中心としてグローバルな医療水準の向上と均てん化を目指しています。IPACは、海外および日本滞在中の外国人患者や海外に暮らす日本人の患者（国際患者と呼んでいます）に対して、通常の日本人患者と同様に日本の先進的医療を提供するアジアにおける先進的医療拠点として活動しています。前身の国際医療連携室の設立は2005年であり、その活動は20周年を迎えています。

教員、医師・歯科医師医員、通訳や技術系、事務系を合わせた26名の国際医療部スタッフが日々国際化を力強く推進しつつ、50名超の各臨床部局の国際化担当者のご支援をいただいております。次の10年も皆様のご協力を賜りますことを切に希望いたします。



Portable Health Clinic（PHC）活動について

九州大学は、ノーベル平和賞のユヌス教授率いるグラミングループ（バングラデシュ）との協定に基づいて、2009年からヘルスケア領域の国際アウトバウンド活動としてPHCを推進しており、これはOVEX活動の一つと位置づけられます。途上国の農村を中心に、ITを用いたヘルスケアサービスの普及と同時に貧困者の自立・起業を目指すプロジェクトです。体重計や血圧計、血糖計など各種センサー類のパッケージを農村に持ち込み、生活習慣病を中心とした健診を実施、WHOなどの診断基準に準拠して、緑（健康）、黄（注意）、橙（発症）、赤（緊急）の４色に自動トリアージします。橙と赤には都市からオンライン診療、遠隔処方を提供します。本プロジェクトはバングラデシュにおいて既に4万人以上に提供しており、インド、マレーシア、インドネシアなどアジア諸国、アフリカ・ザンビアなどでも活動しています。また、妊婦・新生児健診、眼科健診などにも発展しつつあります。日本で多発する大災害後のシェルターの健康管理は課題の一つです。また、10年後の日本は無医村に多くの高齢者が住むことが予想されます。PHCはそれらの課題解決モデルでもあり、SDGsの解決を図りながら、日本の課題解決も同時に目指しています。



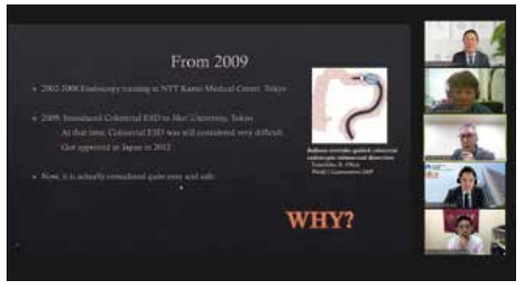
国際医療部各センターの2024年度の活動ハイライト

4月　オーストリアとの「D to P 海外遠隔医療相談」実施

オーストリア在住日本人と九州大学病院の肝臓・膵臓・胆道内科、産科婦人科との遠隔医療相談で、遠隔医療相談諸料金決定後、初の実施となった。患者は言語や医療システムの問題から、現地の治療方針に不安を抱いており、今後、日本での治療を視野に入れた渡航受診前相談として本相談が行われ、後に来日され両診療科を受診した。今後のD to P遠隔医療相談の運用が、渡航受診前相談として有意義であることを示す一例となった。

4月　アメリカ大陸消化器内視鏡学会（SIED）ウェビナー配信協力

4月のSIEDウェビナーは森山智彦副部長とメキシコ国立医学・栄養センター Dr. Miguel Tanimotoが座長を務め、神戸大学の森田圭紀特命医師、国立がん研究センター中央病院の阿部清一郎医師、東京慈恵医科大学の大谷友彦医師がそれぞれ、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）のための資格、先進技術とAIを用いた胃がん診断、内視鏡シミュレータを用いた教育について講演した。

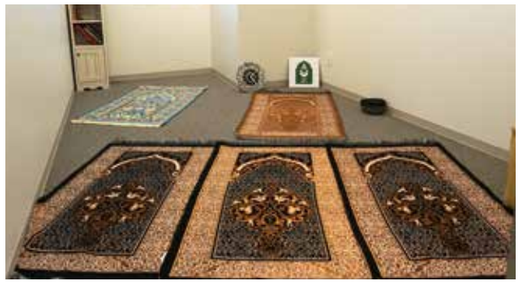


6月　中央アジア・コーカサス地域より医師を受入：JICA 国別研修（A）

2年目となる国際協力機構（JICA）国別研修「早期胃癌の内視鏡診断と治療」を、2024年度は4カ国ずつの2グループに分けて実施した。グループ（A）はアゼルバイジャン、ウズベキスタン、キルギス、ジョージアから5名の医師を招聘した。内視鏡機器がある程度揃った施設で働いている医師も多いこのグループでは、ESDや超音波内視鏡（EUS）など、より高度な内視鏡施術にフォーカスして、見学やシミュレーターを用いた実習に取り組む姿が見られた。

7月 国際医療部遠隔会議室新設

TEMDECの移転に伴い、九州大学病院建物内にあった遠隔会議室も新設された。新しい遠隔会議室はさまざまな会議スタイルに合わせてフレキシブルにレイアウトを変更できる設計になっている。また、建物内に礼拝室も設置し、九州大学教職員や患者等が利用可能である。



7月 中央アジア・コーカサス地域より医師を受入：JICA 国別研修（B）

JICA国別研修「早期胃癌の内視鏡診断と治療」のグループ（B）は、アルメニア、カザフスタン、タジキスタン、トルクメニスタンから4名の医師を招聘して実施した。少人数にしたことで最新のシミュレーターや豚胃を用いてのスキルトレーニングの時間を多く持つことができた。消化器癌の早期発見、診断方法や治療について知識を深めることができる研修となった。

7月 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校へ表敬訪問

森山智彦副部長と工藤孔梨子TEMDEC副センター長が九州大学訪問団の一員としてイリノイ大学の旗艦校であるアーバナ・シャンペーン校への表敬訪問を行った。今回の訪問では、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校に設置されているカール・イリノイ医科大学や、同じく同校に設置されているグレインジャー工科大学を訪問し、学生交流や研究者交流、医工連携のグローバルコンソーシアムへの参加などについて意見交換を行った。

8月 観光庁「令和６年度地域における受入環境整備促進事業補助金（インバウンド安全・安心対策推進事業）」に協力

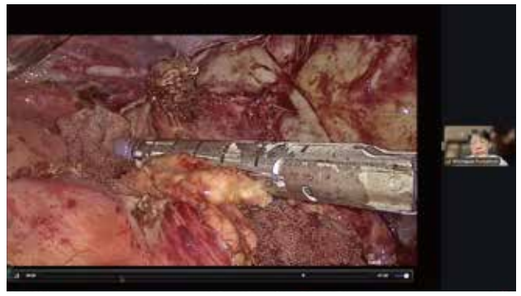
入退院・周術期支援センターにおいて入院予定・手術予定の患者が視聴している説明動画を多言語（英語･中国語）化する事業が採択（事業費の1/2を補助）され、IPACがその説明動画のナレーションを担当する等、外国人患者の受入環境整備に協力した。これらを活用することで、患者へ一層の理解促進を図るとともに、医療事故等のリスク回避および医療安全の確保に努めている。なお、事業費の1/2については、九州大学病院椎木基金支援助成事業の助成を受けている。

8月 日本モンゴル病院視察と実地指導

国立研究開発法人国立国際医療研究センター（NCGM）2024年度医療技術等国際展開推進事業「モンゴル国での消化器疾患診療の人材育成とチーム医療の発展」において、消化器疾患診療に関わる多分野での教育を目的として、内視鏡医・外科医・放射線科医・臨床工学技師とともに日本モンゴル病院を訪問し、現状視察と実地指導を行った。また、現地にて膵頭十二指腸切除術・腹腔鏡下胃全摘術のライブ手術を行なった。回を重ねるごとに現地スタッフとの連携が深まり、現在までのコラボレーションの有益性を再確認でき、また今後の発展につながる素晴らしい機会となった。

8月 第58回 アジア太平洋先端ネットワーク会議（APAN58）がパキスタンにて開催

APAN58の医療ワーキンググループでは内視鏡、外科、眼科、医療ケア、地域医療、公衆衛生、天然素材、生成AI、医学教育、周産期医療など合計18セッションがハイブリッドで開催された。このうち、２つのセッションはパキスタンチームによる開催となった。16カ国から82件のプレゼンテーションが行われ、16カ国、合計502名が参加した。



9月　ケニヤッタ国立病院での内視鏡現地指導

NCGM 2024年度医療技術等国際展開推進事業「ケニアにおける消化器疾患診療の人材育成支援（内視鏡領域）/オリンパス株式会社」のなかで、ケニア内視鏡医に対する教育および指導は九州大学病院が担当しており、同国における内視鏡診療の実情調査と講演、実技指導を行うため、森山智彦副部長を含めた九州大学病院の内視鏡医4名がケニアのナイロビを訪問した。

11月　第９回国際臨床医学会学術集会への参加・発表

2024年11月23日、第9回国際臨床医学会学術集会が大阪大学中ノ島センターにて開催された。医療通訳OJT、日本国際看護師(NiNA)、次世代グローバルヘルス人材等、国際医療を多方向の視点から考察するシンポジウムで構成されていた。相良理香子IPAC専任医師 より「ポストコロナ社会における遠隔医療相談の展望」、有田奈未英語医療通訳より「医療現場における異文化間コンピテンシーの向上」、祁潔中国語医療通訳より「当院における永住帰国中国在留邦人の受診状況と課題」について発表が行われた。

11月　モンゴルより医師を受入

NCGM2024年度医療技術等国際展開推進事業「モンゴル国での消化器疾患診療の人材育成とチーム医療の発展」の一環でモンゴルの5施設から内視鏡・麻酔科・病理・放射線の4分野で計7名の医師が研修を行なった。10月にも外科・内視鏡分野の医師5名の研修を受け入れている。多診療科が協力しながら診療を行なう日本の診療体制を実際に経験することで、チーム医療の重要性を深く理解する良い機会となった。研修の最後には自国の施設とオンラインで接続し研修報告を行った。

12月　スーダンからの学生講義

医学科3年生への講義として、認定NPO法人ロシナンテスの川原尚之医師によるスーダンからの遠隔講義を行った。学生からは、「アフリカと日本が抱える課題を結びつけて解決に取り組むグローバルでアクティブな考え方を聞くことができた」という意見があった。学生たちにとって、これからどのように社会に貢献できるか考える良い機会となった。

1月　2024年度 医療・デザインプロジェクト　最終発表会

2024年度は小児外科と連携し、「手術室など院内施設へ慣れ親しむためのロボット模型のデザイン」、「自主的なプレパレーションを促進するインタラクティブなコンテンツ」、「院内の飾りつけ」のアイデアが採用された。実際に3Dプリンターを用いた模型や、360度映像を活用したアプリなどの高品質なプロトタイプとして制作され高く評価された。

2月　第28回 日本口腔ケア協会学術大会 での技術支援

九州大学医学部 百年講堂においてハイブリッドで開催された本学術大会は「No oral care, No wellness」をテーマとした。特別講演は「摂食嚥下における口腔ケアについて再考する」と題し、2つのシンポジウムのタイトルはそれぞれ「脳血管、脳神経疾患患者の口腔ケア」「周術期の患者支援・口腔ケア」であった。多くの参加者が参集し、有意義な討論が行われ、盛況な会であった。

2月　第18回 アジア遠隔医療シンポジウム (ATS18) がインドネシアにて開催

インドネシアのマランにあるブラウィジャヤ大学Dr. Holipahが主催したATS18では、AIと遠隔医療の連携をテーマに、診断や治療、ヘルスケアや遠隔手術などの様々な遠隔医療の取り組みや知見が共有された。インドネシアを中心に、インド、ネパール、日本からの発表があった。オンサイトとオンラインの両方を合わせて100名以上が参加した。

3月　第59回 アジア太平洋先端ネットワーク会議 (APAN59) が横浜にて開催

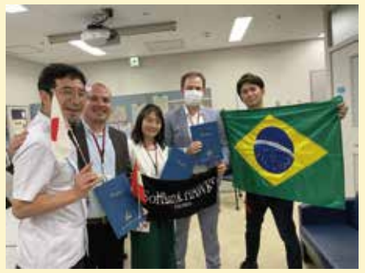
APAN59の医療ワーキンググループでは内視鏡、外科、眼科、地域医療、公衆衛生、天然素材、VR、医学教育、遺伝学など合計17セッションがハイブリッドで開催された。16カ国から70件のプレゼンテーションが行われ、20カ国、合計892名が参加した。

3月　第８回 医系地区国際化フォーラムのハイブリッド開催

歯学部の自見英治郎教授が担当し、医系地区国際化フォーラムが実施された。歯学部、薬学部、医学部、保健学科、病院、それぞれからこの1年間の国際化に向けた取り組みが発表された。今回の特別講演では本学歯学部を卒業後、ユニークなキャリアを経て世界保健機関の本部で活躍されている 原田有理子先生より国際機関で働くことの意義について発表があった。本フォーラムが、学生や若手研究者にとって海外留学を検討するきっかけとなることを期待する。

国際協力機構（JICA）との研修員受入事業

日系社会研修　2018年度より中南米の日系社会に貢献している医師を対象に早期胃癌の内視鏡診断・治療の研修を実施してきた。5年間でブラジル、アルゼンチン、メキシコ、ペルーより13名の医師を受入れた。コロナ禍には中南米7カ国と繋いでオンライン研修を実施した。また、2019年度にはブラジルの栄養士7名が1カ月間研修を行い日本の病院食や栄養管理を学んだ。



国別研修　中央アジア・コーカサス地域では悪性腫瘍を含む非感染性疾患が増加傾向にあることから、2023年度より委託を受け内視鏡領域での早期診断・治療に焦点をあてた研修を実施している。これまで8カ国（アゼルバイジャン、アルメニア、カザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、キルギス、ジョージア、タジキスタン）から計16名の医師が研修に参加し、手技の見学や講義、シミュレーション学習などを通して内視鏡診断や治療についての知識を深めた。

海外交流センター 2024年度報告

受入

研修
29 カ国 58 施設
計 **75** 名

医師	69 名
看護師	2 名
学生	4 名

病院見学
16 名

派遣

技術指導 / 施設訪問
6 カ国 10 施設
計 **24** 名

医師	20 名
臨床工学技士	1 名
技術者	1 名
事務	2 名

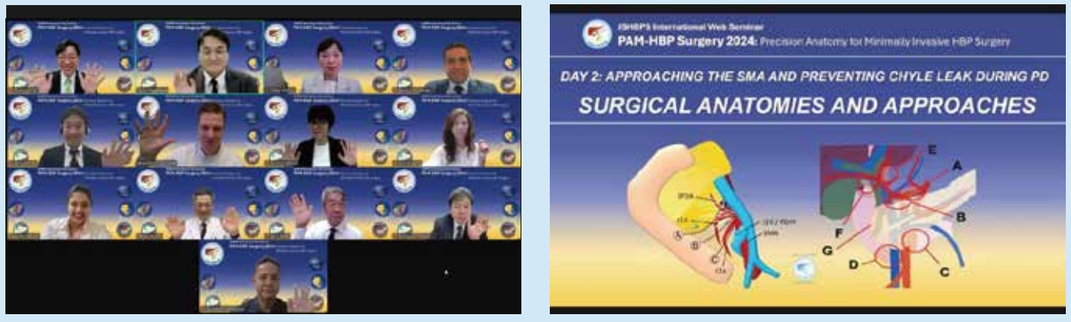
英語研修

九州大学病院教職員のための英語研修に、2024年度は新たにパーソナル学習を導入し、97名が受講した。
アプリでの学習、ネイティブ講師とのオンライン英会話、オンラインセミナーやスピーキングテストなど6つのツールを自由に使用して半年間英語研修を行った。

学会・研究会でのライブデモ・ウェビナー配信支援

アジア遠隔医療開発センター（TEMDEC）は国内外の学会・研究会におけるライブデモンストレーションやウェビナーなどの技術支援を行っている。2024年7月に九州大学病院　心臓血管外科・循環器内科が主催した第14回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会（JTVT2024）では、会場となる大名カンファレンス/ザ・リッツカールトン福岡で初の医療ライブデモンストレーションの技術支援を行った。小倉記念病院、済生会熊本病院から心臓カテーテル手技の高品質な映像配信と、リアルタイムな会場とのディスカッションが行われた。10月には日本肝胆膵外科学会主催の国際ウェビナーの技術支援を行った。韓国、台湾、ドイツ、スペイン、アメリカ、ペルー等世界各国から演者を招き、発表とディスカッションが行われ、YouTubeで同時配信を行い、世界中から1000人以上が視聴した。

第14回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会（JTVT2024）でのライブデモの配信支援



完全オンラインで実施した日本肝胆膵外科学会 国際ウェビナーの配信支援

41 カ国 312 施設 126 イベント　　新規接続 107 施設 30 か国

内視鏡	その他（医療）	外　科	腫瘍学	その他（医療以外）	歯　科
神経内科	保　健	血　液	遠隔医療	一般内科	腎臓内科
テクノロジー	難　病	学　生	小児外科	眼　科	精神科
ナース	産科婦人科	移　植	肝　臓	ロボット	胆　膵
脳外科	医療情報	整形外科	病　理	遺伝学	循環器
呼吸器					

2024年度12月　イスラム教とヒンドゥー教に関する動画作成
― 九州大学病院公式YouTubeにて公開開始！―

2024年12月、医療従事者向けに、宗教や異文化に対する認識の向上を目的とし、特に医療現場で多くの注意点を有するイスラム教とヒンドゥー教に関するYouTube動画を作成した。これらはモスクへの訪問、外国人患者への聞き取り、そして文献をもとに作成しており、他の医療機関からも動画共有の要望がある。また、外国人患者に九州大学病院の注意点について理解いただくため、病院での一般的な手続きや言語支援等、外国人患者特有の事項をまとめたリーフレットを多言語で作成した。それらを総合案内近くに配置し、外国人患者と医療者の相互理解を目指している。

イスラム教

ヒンドゥー教

多言語リーフレット

通訳タブレット端末の追加導入と利用動画配信

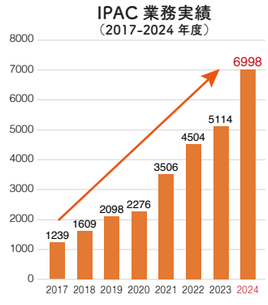
希少言語需要の高まりを受け、通訳タブレット端末の種類や台数の見直しを行った。2024年6月に追加導入し、現在は2種類、計10台の端末を配備しており、それぞれの特徴を生かした利用促進のため、医療従事者向けに利用方法に関するYouTube動画を配信している。

mediPhone の利用方法

MELON の利用方法

国際患者増加と国際診療支援センター（IPAC）の業務実績

九州大学病院の国際患者数は年々増加しており、訪日患者数も2024年度過去最高を更新した。これに比例し、IPAC業務件数も通訳、翻訳、受入相談、体制整備、そして海外遠隔医療相談の全てにおいて増加している。
2024年度は特に、インバウンド観光客の緊急受診時対策や未収防止対策等、診療科や関連部署と連携し、リスクマネジメントを含む体制整備に力を入れた。



2024年度「Doctor to Patient (D to P) 海外遠隔医療相談」実績と成果

2024年度は、九州大学病院医師と海外居住の国際患者間で行うDoctor to Patient (D to P) 海外遠隔医療相談を、九州大学病院が定める諸料金規定のもと本格始動した。この1年間で、アジアや欧州諸国との遠隔医療相談を14件実施した。
本サービスは、渡航受診前の判断や現地での治療方針の決定など、様々な目的で利用されており、患者や患者側参加者から非常に高い満足度を得ている。

九州大学病院整形外科とモンゴル人患者間の遠隔医療相談

外部獲得資金による研究プロジェクト

◆厚生労働科学研究費地域医療基盤開発推進研究事業2024
24IA1019
ヘルスケアとセルフケアのプロセス統合DXを目指す戦略的国際標準化
中島 直樹

◆NCGM医療技術等国際展開推進事業: 2024
モンゴル国での消化器疾患診療の人材育成とチーム医療の発展
九州大学（森山 智彦）

◆人材育成事業（エジプト・日本教育パートナーシップ/EJEP）
OJT研修（臨床修練研修）2024-25年度
九州大学病院

◆独立行政法人 国際協力機構2024年度 国別研修 中央アジア・コーカサス広域研修
「早期胃癌の内視鏡診断と治療」
森山 智彦

◆独立行政法人　国際協力機構2024年度　日系社会研修員受入事業
「早期胃癌の内視鏡診断と治療」
森山 智彦

◆JSPS科学研究費基盤(C) 2020-2024 JP20K10321
アジアにおける大腸癌死亡率低下を目指した持続可能な国際遠隔医療教育
森山 智彦

◆公益財団法人　内視鏡医学研究振興財団令和6年度
海外研究医受け入れ助成
仲田 興平

◆JSPS科学研究費基盤(B) 2023-2026 JP23K25702
アジアにおける遠隔医療教育のためのeラーニング技術研修プログラムの開発と実証
工藤 孔梨子

◆JSPS科学研究費挑戦的研究（萌芽）2023-2025 JP23K17621
医療とデザインを融合した創造的教育プログラムの開発と実証
工藤 孔梨子

◆JSPS科学研究費基盤(C) 2022-2024 JP22K02858
拡大内視鏡を用いた精緻な早期胃癌診断を世界に普及するための画像品質基準策定
上田 真太郎

◆JSPS科学研究費基盤(C) 2024-2027 JP24K06306
全天球カメラを用いた医療コンテンツのオンデマンド配信に関する研究
久田 由紀子

◆JSPS科学研究費基盤(C) 2024-2026 JP24K15617
Making Telemedicine More User-Friendly to Make Healthcare Accessible to All
エロクラ ネルミン（中島 直樹）（森山 智彦）

◆医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業（地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム　SATREPS）: 2021-
ピロリ菌感染症関連死撲滅に向けた中核拠点形成事業
山岡 吉生（森山 智彦）

◆NCGM医療技術等国際展開推進事業: 2024
ラオスにおける胃癌撲滅のための消化器専門医の育成
NPO法人 胃癌を撲滅する会(HIGAN)（森山 智彦）

◆NCGM医療技術等国際展開推進事業: 2024
ケニアにおける消化器疾患診療の人材育成支援（内視鏡領域）
オリンパス株式会社（森山 智彦）

◆JSPS令和６年度課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 学術知共創プログラム
人口動態予測に基づく空間格差の解消に向けたシナリオ
蕭 耕偉郎（工藤 孔梨子）

◆JSPS科学研究費基盤(C) 2024-2026 JP24K06247
構音訓練に向けた音声器官３次元ビジュアライズシステムの開発
工藤達郎（工藤 孔梨子）

学内研究プロジェクト

◆ 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構（Q-AOS）
健康クラスター　遠隔医療モジュール
森山 智彦（工藤 孔梨子）

産業クラスター　ポータブル・ヘルス・クリニック（PHC）モジュール
中島 直樹

健康クラスター　健康・医療デザインモジュール
秋田 直繁（工藤 孔梨子）

◆ 九州大学 未来社会デザイン統括本部
医療・健康ユニット
小柳 悟（中島 直樹）（森山 智彦）（工藤 孔梨子）

◆ 九州大学 データ駆動イノベーション推進本部
健康医療DX推進部門
中島 直樹（森山 智彦）（工藤 孔梨子）

iMed

iMed 部長
中島 直樹
教授
副病院長
IPAC センター長

iMed 副部長
森山 智彦
准教授
TEMDEC センター長
OVEX 副センター長

OVEX

OVEX センター長
仲田 興平
准教授
光学医療診療部長

OVEX 副センター長
森山 智彦
准教授
iMed 副部長
TEMDEC センター長

永吉 絹子
助教
臨床・腫瘍外科

岩﨑 佑香
医員
顔面口腔外科
(~2025/3)

畑中 直子
国際コーディネーター

森 由美
国際コーディネーター
(~2025/2)

中村 みち子
事務補佐員

TEMDEC

TEMDEC センター長
森山 智彦
准教授
iMed 副部長
OVEX 副センター長

TEMDEC 副センター長
工藤 孔梨子
講師

永吉 絹子
助教
臨床・腫瘍外科

上田 真太郎
特任講師

久田 由紀子
特任助教

松田 沙織
エンジニア

長峰 史子
国際コーディネーター

和久井 尚子
国際コーディネーター

岡田 真由子
エンジニア
(~2025/2)

片山 林太郎
エンジニア

大山 明子
事務補佐員

川口 暁子
事務補佐員
(~2025/3)

IPAC

IPAC センター長
中島 直樹
教授
副病院長
iMed 部長

IPAC 副センター長
下野 信行
教授
総合診療科

相良 理香子
専任医師

祁 潔
中国語医療通訳

有田 奈未
英語医療通訳